



新竹縣北埔鄉公所
<https://www.beipu.gov.tw/>

北埔

お茶の香り溢れる ▲ 百年の客家の里

新竹縣北埔鄉役場 | 観光案内



北埔地域はもともと先住民族の活動地域であり、清の道光年間になってようやく漢人による本格的な開拓が始まりました。道光 14 年（1834 年）、清朝は竹塹城の客家系士紳・姜秀鑾と、閩系商人・周邦正に命じて共同で「金廣福総墾戸（金廣福という名の公式開拓請負団体）」を組織させ、武装開墾を行い大隘地域を開拓しました。そして南興庄を築き、これが現在の北埔・峨眉・寶山の三つの郷の起源となりました。その後、閩系の株主は離脱し、開発の主導権は姜氏一族が握り、北埔地域の主要勢力となりました。また、多くの広東系の客家人を呼び寄せ、北埔が客家集落としての基盤を確立することとなりました。

日本統治時代の統計によれば、北埔の住民は 100%が広東系で、特に惠州出身者が最も多くを占めていました。民国 22 年（1933 年）、住民は「開闢百年大祭（開拓百周年大祭）」を執り行い、秀巒山に記念碑を建て、開拓の先人である姜秀鑾を追悼しました。北埔という地名の変遷については、清代には竹塹堡に属し、日本統治期には新竹州竹東郡北埔庄となり、戦後は新竹県に編入されました。そして民国 39 年（1950 年）に正式に北埔郷として設置され、現在までその行政区分が引き継がれています。

手工芸

史跡・文化財

年間イベント

客家グルメ

観光名所

竹細工



北埔の竹細工は実用的な生活用品から生まれました。米粉を干す竹の網から茶籃（背負いかご）に至るまで、すべて職人の手仕事による精巧な技です。これらは日本統治時代以来の生活の知恵と伝統工芸を今に伝えています。



陶芸

薪火で焼く陶芸は自然のイメージを取り入れ、火と土の対話を通じて、実用性と芸術性を兼ね備えた器を生み出します。北埔の陶芸作家の匠の技と生活美学がここに表れています。





金廣福公館

清代の開墾を物語る国定古跡
客家の開墾精神を伝える証

金廣福公館は清・道光年間に建てられ、広東出身の姜秀鑾と福建出身の周邦正が共同で大隘地区を開墾する際の重要拠点でした。台湾で唯一、民間の開墾者によって建てられた官式建築で、現在は国定古跡に指定されています。建築は構造や配置が厳格で整っており、客家の開墾史や共同体精神を伝える場として、北埔の歴史や客家文化を理解する上での中心的なスポットです。



姜阿新洋樓

◀ 百年茶商の華やかなバロック洋館

姜阿新洋樓は、日本統治時代に北埔の茶商・姜阿新によって建てられ、バロック様式と閩南建築の特色が融合しています。当時の茶葉貿易の繁栄と姜族の栄誉を伝える建物です。内部装飾は細やかで、外観は典雅であり、茶業が盛んだった時代の生活美学を反映しています。現在は新竹県指定の古跡であり、北埔では珍しい洋館建築として、茶業文化の証となっています。

忠恕堂

◀ 百年にわたる儒家精神を伝える歴史建築

忠恕堂は1922年に建てられ、北埔の秀才・曾学熙の子、曾成統によって創建された曾一族の宗祠建築です。堂名は『論語』の精神に由来し、家風と儒学思想を体現しています。建築は伝統的な三合院で、間取りは典雅で質素、閩南と客家の建築様式が融合しています。現在は歴史建築として保存され、北埔の地方名士一族を知る上で重要な文化拠点となっています。



天水堂

▼ 開山祖の居宅と茶商の旧宅の歴史的証拠

天水堂は北埔開墾の首領・姜秀鑾によって建てられた姜氏一族の祖宅であり、茶商・姜紹祖が育った故居でもあります。建物は北向きに座し、間取りは厳格で、伝統的な客家三合院の姿を保ちつつ、地域の権力構造や文化信仰の要素も融合しています。北埔の重要な開拓一族の歴史的拠点として、天水堂は拓墾、茶業の発展、そして一族の栄誉にまつわる共同の記憶を今に伝えています。



慈天宮

▲ 北埔客家集落の信仰拠点

慈天宮は清・道光年間に建立され、主に観音菩薩を祀る北埔客家集落の重要な信仰拠点です。廟は閩南と客家の建築様式が融合しており、屋根の剪黏細工や木彫装飾は精緻かつ華美です。民俗行事や祭典の際には参拝者で賑わい、住民にとって祈願や交流の大切な場となっています。現在は新竹県指定の古跡であり、北埔の地方宗教と社会生活の歴史を伝える建物です。

姜氏家廟

▼ 北埔開拓一族の信仰拠点

姜氏家廟は、北埔開山祖・姜秀鑾とその子孫を記念して建てられたもので、北埔を代表する宗族祭祀の空間です。また、姜家が四代にわたり金廣福聖号（金廣福開墾会社）を運営してきた歴史を物語る建物でもあります。建築の間取りは厳格に整えられ、客家と閩南の伝統様式が融合しています。現在は新竹県指定の古跡であり、北埔の客家集落における宗族制度や地方権力構造を理解する上で重要な拠点です。



雙安橋



▶ 嫁入り道具として築かれた北埔の古橋

雙安橋は清・咸豐元年（1851年）に建設され、金廣福第二代開墾者・姜殿邦が資金を出し、娘が梁榮昌に嫁ぐ際の嫁入り道具としての役割を果たしました。橋の長さは約27メートルで、三連アーチの赤レンガ石橋として大湖溪を横断し、通行だけでなく灌漑の機能も兼ねています。橋名は姜家と梁家の結婚による「双方の平安」を象徴しており、北埔開墾期の宗族協力や交通整備の歴史的記憶を伝えています。現在は歴史的建造物として保存されています。



鄧南光影像紀念館

◀ 古い医院が生まれ変わった光と影の記憶の場

前身は鄧世源医院で、北埔初の留日医師によって建てられた歴史的建造物です。後継者の鄧南光は台湾のドキュメンタリー写真の先駆者で、作品は台湾庶民の生活を記録しており、高い人文的価値を持っています。記念館は古い建物と展示空間を融合させ、貴重な写真資料やカメラ文物を常設展示しており、北埔における歴史・建築・映像文化を結ぶ芸術文化のランドマークとなっています。



龍瑛宗文學館

▶ 日式校舎が姿を変えた文学の記憶の場

龍瑛宗文學館は、北埔の日本統治時代の公学校を前身とする典型的な日本式木造建築で、現在は歴史的建造物に指定されています。作家の龍瑛宗は北埔出身で、日本統治時代を代表する文学者であり、作品は植民地社会下の人間性や郷土を描いています。文學館では展示やガイドを通じて、彼の文学精神や当時の時代背景を伝え、教育・歴史・地域文化が融合した静謐な空間となっています。



年間イベント



新春三鳥當沙鼻

◀ 旧正月前夜の喜びあふれる行事

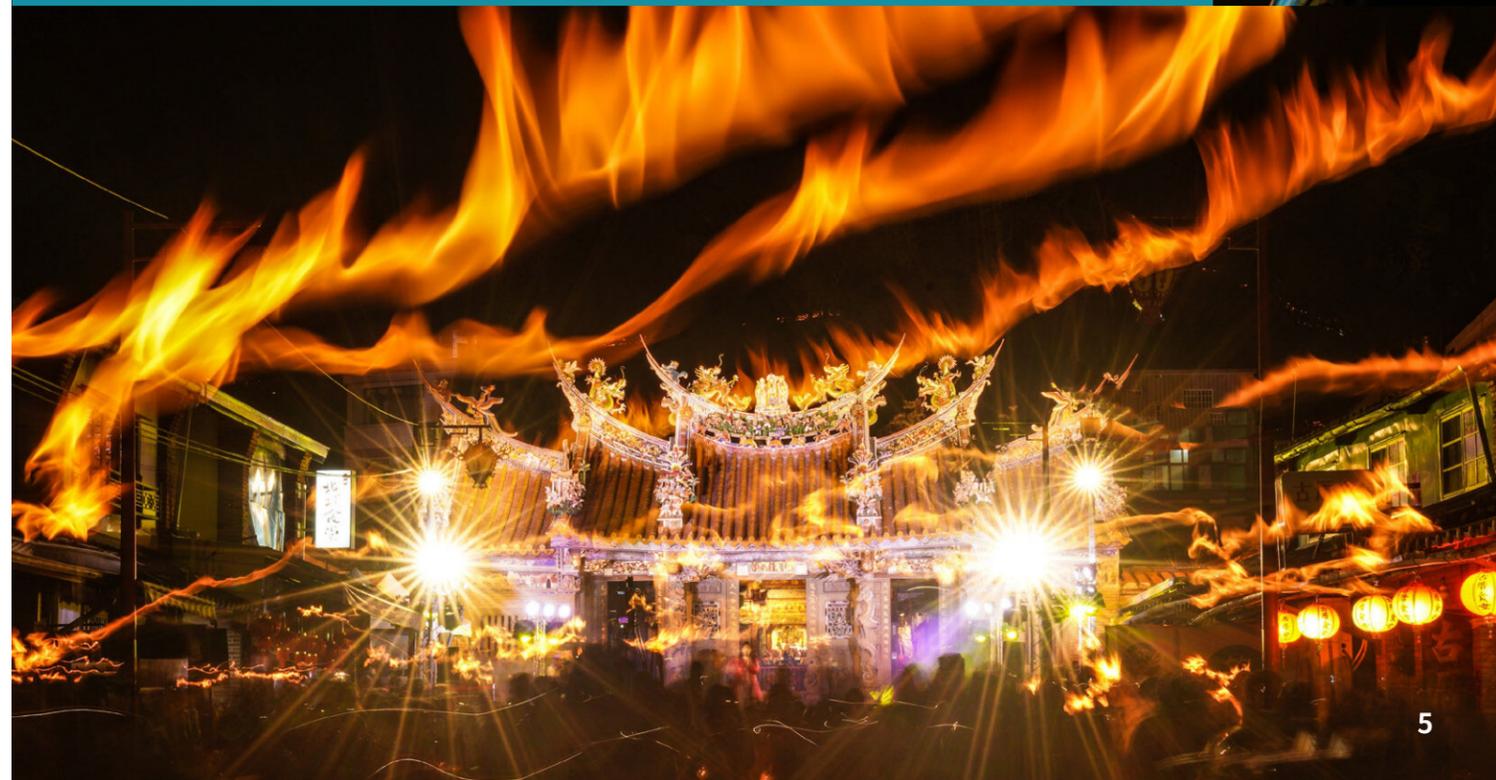
「新春三鳥當沙鼻」は、北埔で旧暦の春節前に行われる伝統的な民俗イベントで、書家による春聯（旧正月に家の門に貼る、おめでたい言葉を書いた赤い紙）の贈呈と、客家の伝統的な勝負遊び「跌三鳥」の体験を組み合わせた催しです。新年を目前に控えた時期に、地域ならではの正月ムードを味わえる行事として親しまれています。当日は書道の先生が春聯を揮毫し、住民や来訪者に配布します。また、伝統的な勝負遊びの参加型企画も実施され、参加者は客家文化に触れながら、にぎやかな新春の雰囲気を楽しむことができます。



正月十五油笏火

▶ 龍脈をつなぎ、山あいの客家集落を照らす炎の祭り

正月十五油笏火は、北埔の元宵節を代表する民俗行事で、千人が油竹火を掲げて夜の秀巒山を練り歩きます。火の帯が龍のようにうねりながら山城を照らし出し、「北埔の龍脈を呼び戻す」象徴として、五穀豊穡や祖霊の加護を祈願します。油竹火の製作体験、火舞のパフォーマンス、客家語の灯籠など、さらに客家の伝統的な勝負遊びなど、多彩な要素が一体となり、文化表現と視覚美が融合し、信仰と創意が響き合う年中行事として親しまれています。



**桐の花を巡る北埔
花に彩られた客家の里**

春限定・客家集落の桐花祭

毎年4月下旬から5月中旬は、客家集落で桐の花が満開になる季節であり、ホタルも姿を現す時期です。日中は北埔で古跡のガイドツアーや桐花の遊歩道ハイキングを楽しみ、夜は山林に分け入って、桐の花とホタルの幻想的な景色を同時に楽しむことができます。



細人普

◀ ▼ 幼い霊を慰める祈福と子ども向けの祭典

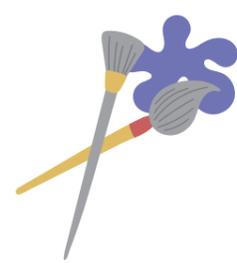
細人普は北埔で旧暦7月に行われる、幼い霊を供養するための儀式で、慈悲深い女性の善行に由来します。行事では、伝統的な装飾芸術、粘土人形のDIY、影絵や人形劇の上演、童玩市などが行われ、「細人趣老街」という体験型イベントも展開されます。参加者は幸福と安全を祈りながら、子どもの頃の楽しさや客家集落の温かさを感じることができ、信仰文化と創造性が融合した夏の風物詩となっています。



中元藝民祭

▲ ▼ 伝統・創意・公益が融合した夏の祭典

北埔の中元藝民祭は、祭祀の伝統と公益的な創意を組み合わせた行事です。中心となるのは「神豚の募金箱（撲満）」で、その重さ、工夫を凝らした入場、公益寄付の内容を競い合うなど、新しい文化の形を示しています。当日は装飾を施された神豚ショー、鬼や妖怪をテーマにしたパレードが繰り広げられ、全国からの参加者や観光客を魅了します。信仰、楽しさ、公益が一体となった、客家集落ならではの夏の風物詩です。





膨風路跑

▲ 山あいの街を駆け抜ける、茶と柿の香りに包まれた北埔ならではのロードレース

「膨風茶」をテーマにした北埔の特色あるロードレースで、毎年秋に開催されます。コースはハーフマラソン、健康コース、レジャーコースの三種類があり、選手は茶畑や山の斜面を駆け抜けながら北埔の景観を楽しめます。沿道には地元グルメの補給所が設けられ、応援団もいます。ゴールでは茶の試飲体験や記念パズル型メダルの収集も可能です。運動、自然、茶文化が融合した山あいの一大イベントです。



茶と食の儀式感



挿茶



膨風茶



酸柑茶



東方韻紅茶

北埔の客家人は、茶を生活のあらゆる場面に取り入れています。茶は単なる来客用の飲み物にとどまらず、祈福や団欒の象徴でもあります。挿茶は茶葉、穀物、ナッツを細かくすりつぶして淹れられ、「根を生み、育み、息づかせる」という深い願いを込めた味わいです。毎年芒種の時期に摘まれる膨風茶は、小さな緑葉蟬にそっと触れられたことによって独特の蜜の香りを放ち、北埔茶文化の輝かしい宝となります。酸柑茶は地元の酸柑と節約の知恵を結集し、日常の飲み物を健康的な珍しい飲み物に昇華させ、家族の団らんの温かな記憶を伝えます。日々の一杯から季節限定の茶まで、北埔の茶文化は自然の恵みと人情の趣を織り交ぜ、調和の美を花開かせています。

有柿来找茶

▼ 秋限定の柿と茶の香りあふれる祭典

毎年秋、北埔では石柿と膨風茶の収穫期に合わせて「有柿来找茶」イベントが開催されます。柿染め体験、茶席体験、干し柿のDIY、農村小旅行に加え、茶農体験ゲームや膨風茶の擂台（競技）など、さまざまな楽しい企画が用意されています。会場では旬の農産物も販売され、参加者は干し柿を味わい、膨風茶を楽しみながら、秋の客家集落ならではの風土と活気を体感できます。



牛汶水

客家文化において「板（ばん）」は、単なる食べ物の枠を超え、祝福や世代を超えた伝承の意味を宿しています。北埔の板料理は種類が豊富です。例えば紅板は鮮やかな色合いが吉祥や慶事を象徴し、婚礼や長寿の祝いの貴重な供物として用いられます。牛汶水や糖湯粿は、それぞれ夏の清涼感や冬の温もりを楽しむ伝統的な味わいです。菜包（野菜餡の餅）、鹹湯圓（塩味の団子スープ）、菜頭板（大根もち）などは昔ながらの製法で故郷の風味や季節の知恵を伝えます。餅つきで作る麻糬は、手作業の楽しさにあふれ、練る過程で家族の温もりや親密なつながりが感じられます。北埔の板料理は、形・色・香りのみならず、その情感や文化的背景に至るまで、客家文化の深い精神性と人文的価値を色濃く映し出しています。

板料理と点心文化



菜包



紅板

北埔の客家料理は、塩味を基調とした力強い旨味と、保存性の高さで知られ、山間で暮らした先人たちの実直で合理的な知恵が息づいています。薑絲大腸（生姜と大腸を合わせた料理）は酸味と辛味が爽やかに際立ち、梅干扣肉（梅干し入り角煮）は深みのある甘辛さが後を引き、いずれも客家食卓を代表する主菜として親しまれています。酸菜鴨湯（酸菜入り鴨スープ）は香り高く、胡椒鴨は辛味が食欲を刺激し、節句や家族の集まりに温もりを添える存在です。福菜や老菜脯（干し大根）といった漬物は、土地に根づく“お母さんの味”として長く受け継がれ、福菜排骨湯（福菜とスペアリブのスープ）、豆干湯（干し豆腐のスープ）、桔葉粉腸湯（陳皮入り腸粉スープ）などの滋味深い椀物へと姿を変え、世代を超えて親しまれてきました。これらの料理は、味わいそのものの豊かさに加え、客家の人々が紡いできた温かな人情と文化の継承を静かに語り続けています。

家庭料理の定番

土地に根付くお母さんの味 100年続く伝承



酸菜鴨
酸菜入り鴨肉料理



客家肉粽
客家ちまき



菜頭版
大根もち



胡椒鴨
胡椒風味の鴨料理



梅干焗肉
梅干し入り角煮



紫蘇炒猪舌頭
紫蘇風味の豚舌炒め



猪脚
豚足



酸菜肉片湯
酸菜と豚肉のスープ



柿餅湯
干し柿のスープ



長豆乾排骨湯
干しインゲン豆とスペアリブのスープ



焗肉筍乾
豚肉と干し筍の煮込み



薑絲大腸
生姜と大腸の炒め物



客家小炒
客家風炒め物



客家鹹猪肉
客家風塩漬豚肉



木耳鳳梨猪肚
キクラゲとパイナップル入り豚もつ煮



保存と発酵の知恵



客家の先人たちは自然環境を巧みに生かし、多彩な保存・発酵技術を発展させてきました。北埔の干し柿は、自然乾燥の手法で仕上げられ、柿本来の甘みと弾力のある食感が魅力の、冬を代表する特産品です。桶柑は加工によって干し柑橘へと生まれ変わり、滋養と風味の双方を備えた一品として受け継がれています。天然醸造の酢づくりもまた、古くから続く醃漬・発酵文化を体現するもので、有機野菜や冷泉米を長期発酵させて仕込まれます。食材の保存性を高めるだけでなく、健康への配慮も込められており、土地の知恵が凝縮されています。一見すると質素な保存食のように見えても、そこには自然と共に暮らしてきた営みと、繊細な情感が深く息づいています。



桶柑餅
干し桶柑



石柿餅
干し石柿



天然醸造酢



漬物



北埔市街散策

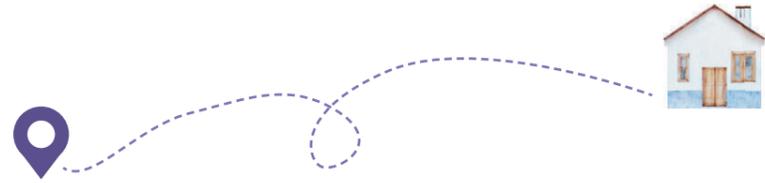
古い街並みに足を踏み入れ、客家集落の日常を感じる



北埔老街（古い街並み）

▲ 百年にわたる客家集落の記憶

赤レンガの街屋や路地の角には、清代や日本統治時代の歴史の痕跡が息づいています。慈天宮の盛んな香火、板食や茶行、擂茶の香りがあたりに広がり、濃厚な客家の風情を織りなしています。旅人にとって、文化と記憶を味わう出発点となる場所です。



北埔冷泉

◀ 清涼の秘境、北埔冷泉

北埔冷泉は外坪村の山あいには佇む、台湾でも珍しい炭酸泉と硫黄泉が共存する湧泉です。年間を通して水温は10～20℃、ほんのり黄褐色を帯び、天然ミネラルを豊富に含んでいます。園内には足湯池、吊り橋、水のカーテンのように落ちる滝が整備されており、夏は水遊びで涼をとり、春にはホテル鑑賞の名所として多くの人を魅了します。滑らかな冷泉は、心身を解きほぐすリフレッシュスポットであると同時に、自然と寄り添う癒しの空間として親しまれています。



百年水車

▶ 北埔農村の歳月を紡ぐ水力文化の象徴

北埔郷南埔村に佇む百年水車は、かつて客家農村において灌漑と製粉を担った重要な水力装置です。山間の湧水による落差を利用し、木製の水輪が自律的に回転する構造は、動力源を自然に委ねた先人の知恵を映し出しています。時代の変遷を超えて今もなお動き続けるこの水車は、自然と調和しながら暮らしてきた地域の営みを象徴し、北埔の農村文化を現在へと語り継ぐ貴重な存在となっています。



麻布山林

◀ ▼ 友達が創り上げたサステナブル教育の森の基地

麻布山林は、友達光電が北埔の山林に設立した教育研修施設であり、サステナビリティ、素朴、美学を核とした設計理念のもと、自然景観と人文的思考を調和させた空間です。環境教育、社員研修、文化体験など多彩なプログラムが実施され、企業と自然が共生する取り組みを体現する場として機能しています。



南埔百分橋

◀ 百年農村の交通記録を語る石橋

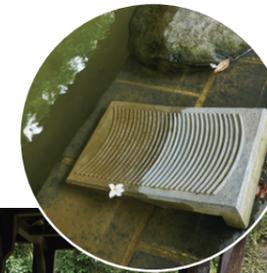
北埔郷南埔村に位置する「百分橋」は、日本統治時代に築かれた石造アーチ橋で、その名は「百人が力を一つにする」という象徴的な意味を持っています。住民が分担して築橋に携わった歴史が刻まれ、地域の結束と協働精神を今に伝えています。橋はかつて田畑や灌漑水路を跨ぎ、耕作地へ向かう生活動線として重要な役割を果たしてきました。現在も橋の姿は良好に保存され、周囲には静かな農村風景が広がります。稲田と水路に囲まれたこの地景は、北埔の農村文化とコミュニティ精神を知る上で極めて貴重な歴史資産となっています。



大林洗衣場

▼ 郷情を映す水辺の集い場

大林洗衣場は、かつて地域住民が共同で洗濯を行った公共の場です。清らかな水路と並ぶ石槽は、女性たちの交流や隣人同士の助け合いの象徴でもありました。現在では洗濯の光景はほとんど見られませんが、当時の風情はそのまま残り、客家の生活文化を静かに伝える歴史スポットとして訪れる人を迎えています。



南埔洗衫坑

▶ 水音が響く記憶の一角

南埔洗濯場は、かつて村の女性たちが集まり洗濯を行った場所です。せせらぎの水と石段の水槽は、客家女性の勤勉で慎ましい暮らしを映し出しています。現在では洗濯をする姿はほとんど見られませんが、温かな人情と当時の生活の記憶が色濃く残り、静かに農村の風景を楽しむことのできる小さな名所となっています。



大坪実験国小（小学校）

▶ 山村に息づく学びと文化の場

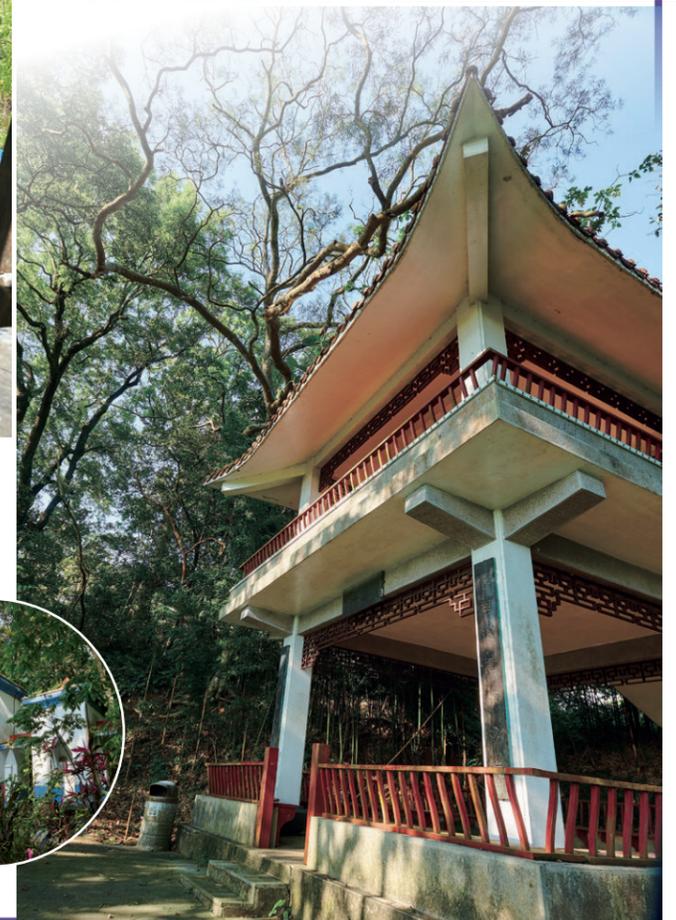
大坪実験小学校は北埔の山間に位置し、自然環境と革新的な教育を融合させた学びの空間です。素朴な建物は地域の風土と調和しており、展覧会や講座、コミュニティ活動が頻繁に行われます。小規模校ならではの精神と山村文化が交わる、地域にとって重要な文化拠点です。



秀巒山公園

▶ 開拓先人を偲ぶ静かな高台

秀巒山公園は北埔集落の背後の山に位置し、北埔開拓の先駆者・姜秀巒を記念して名付けられました。園内には「開墾百年記念碑」が設置され、静寂な林に囲まれた環境が広がります。登高して景色を楽しむとともに、北埔の開拓史に触れ、先人を偲ぶ文化的な地景としても魅力的です。春や秋の季節は、散策や小休憩に最適です。





茶園・田園を巡る散策コース

茶畑の香り広がる田園に足を踏み入れ、農村の静かな囁きを聴く

大湖コミュニティ茶園景観

▲ 重なり合う緑の丘陵に広がる茶郷の風景

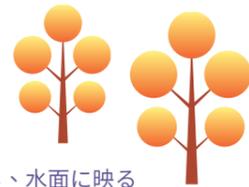
大湖コミュニティの茶園は、山の斜面に重なり合うように広がり、四季折々で変化する美しい景観を楽しめます。朝は霧が立ち込め、夕暮れ時には柔らかな光が茶畑を照らし、茶の香りと山景が調和する北埔でも特に詩情豊かな田園風景のひとつです。散策や写真撮影、静かに景色を楽しむのに最適なスポットです。



六塘落羽松

◀▼ 四季折々の美しい田園の秘境

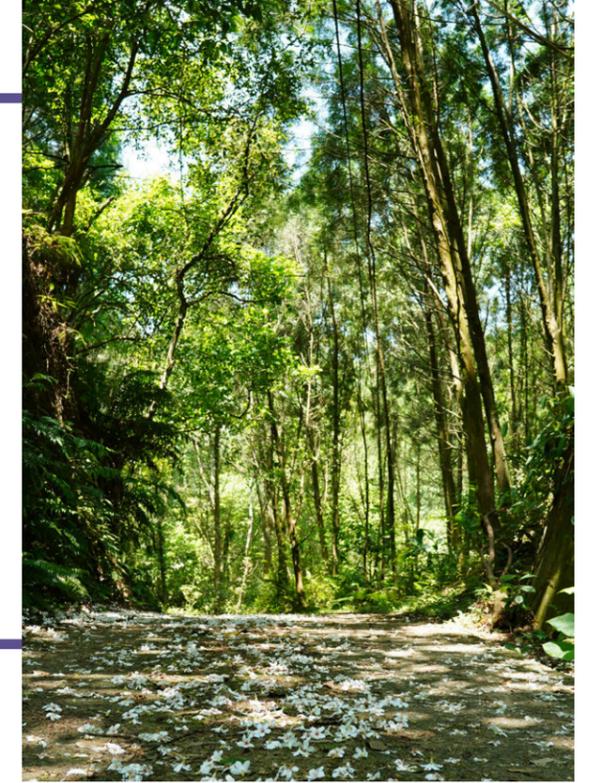
北埔六塘地区に広がる落羽松林は、秋から冬にかけて紅葉し、水面に映る姿はまるで詩画のようです。春と夏は緑が生い茂り、そよ風が心地よく吹き抜けます。周囲の茶園や柿園と組み合わせることで、北埔山村の静かで優雅な田園風景を楽しめるスポットとなっており、写真撮影や散策に最適です。



石崙古道 (別名：石硬子)

▶▼ かつて山里の人々が往来した堅牢な石畳道

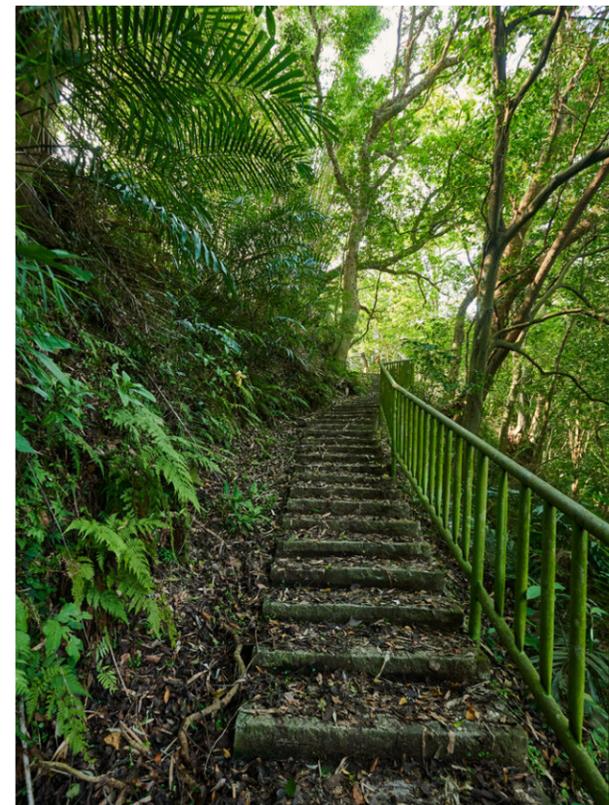
石崙古道は「石硬子」とも呼ばれ、かつて北埔の住民が山林へ往来し、物資を運搬する際に利用した重要な通路です。石を敷き詰めた古道は堅固で歩きやすく、道中は豊かな樹林に包まれ、鳥のさえずりが響きわたります。歴史の記憶と自然の趣が調和する、散策に最適な古道です。



南埔村観音トレイル

◀ 静寂の山道に寄り添う心の散策路

竹林や木陰の中を抜けるこの山道には、途中で観音石像が点在し、穏やかに心安らぐ雰囲気が広がります。自然と信仰が調和した癒しのトレイルで、家族連れや軽いハイキングを楽しむ方に最適な散策路です。



南埔村挑水壩古道

◀▲ かつて薪を運び、水を汲みに通った生活の古道

南埔村に位置する挑水壩古道は、往時の村民が山へ薪を担ぎに行き、水を汲みに向かうために利用した生活道です。道中は木々が生い茂り、石段には昔の趣が残り、勤勉な客家の暮らしを物語っています。歩きやすく親しみやすいルートで、歴史的情景と自然美を同時に楽しめる軽ハイキングに最適な古道です。



山の息遣いを感じるトレッキングルート

山を越え、北埔の森が語る物語を辿る

緑世界生態農場

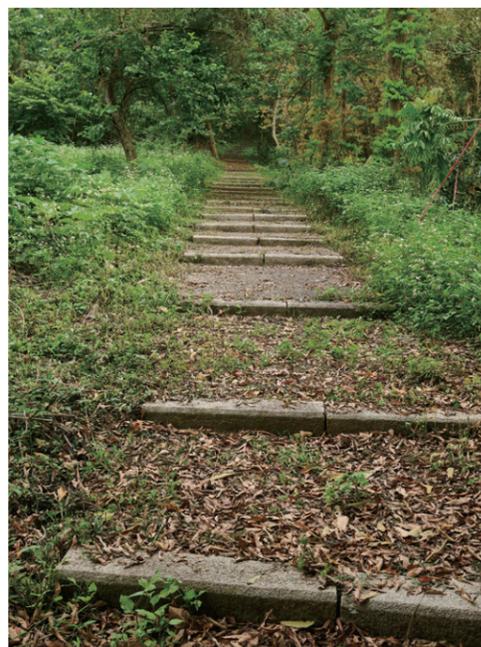
▲ 親子で楽しむ生態探索パーク

北埔郷に位置する緑世界生態農場は、約 75 ヘクタールの広大な敷地を誇る大型亜熱帯雨林テーマパークです。園内にはアルパカハウス、バードパーク、スカイウォークなど六つのエリアがあり、餌やりショーやガイドツアーも充実しています。教育性とエンターテインメント性が融合した、親子で楽しめる生態系学習型レジャーパークです。

大分林山歩道

▶ 石段と木陰が織りなすハイキングの旅

北埔郷に位置する大分歩道は、全区間が花崗岩の石板で整備され、勾配も緩やかで歩きやすいコースです。ルート沿いにはクスノキ、アカシア、竹林が続き、森林の香りが心地よく漂います。山頂からは鵝公髻山、五指山、さらには北埔の郷景を一望でき、春季の桐花が満開となる頃には、石段が白い花で覆われ、まるで花の絨毯のような幻想的な光景が広がります。手軽に自然美と山の魅力を味わえる、理想的なハイキングコースです。



二寮神木

◀ 山野に静かに佇む百年の守り神

二寮神木は、根が複雑に広がり、空へ向かって堂々と伸びる北埔山域屈指の原生巨木です。古くから地域の人々に「山林の守護者」として大切にされ、登山者にとっては静かに祈りを捧げる憩いの場でもあります。自然の力強さと信仰文化が交わるこの地は、訪れる人々に深い安らぎと畏敬の念をもたらします。



五分寮頂山

▼ 北埔の山林深くに息づく静寂のオアシス

五分寮頂山は標高約 410 メートルの北埔を代表する山岳のひとつです。山頂には土地調査局の三角点が設置され、登山道は緩やかに続くため、ハイキングを楽しむ方に人気があります。周辺は豊かな森に包まれ、近隣の山々と調和した景観が広がり、客家山村ならではの自然と文化に触れられる絶好のスポットです。

千段崎古道 (天空の城・姜家大院)

▲ 一步ごとに風景が開く 歴史が刻まれた山道

千段崎古道は、幾重にも連なる石段が特徴の山道で、かつて山民や挑夫が往来した重要な生活路でした。ルート全体を包む豊かな樹林帯は静寂に満ち、清らかな空気とともに、往時の暮らしを感じさせます。歴史探索と自然歩道の魅力を同時に味わえる、理想的なハイキングコースの1つです。



五指山登山歩道

— 猿の洞窟「一線天」、仙山歩道、横断ルート

◀ 岩の隙間と山林を越える冒険の道

北埔の五指山は雄大な山容と豊かな自然景観に恵まれ、登山道は「猿の洞窟 一線天」「仙山歩道」「横断ルート」をつなぎます。難易度は中程度で、変化に富んだ風景を楽しめます。特に「猿の洞窟 一線天」は峡谷の間を抜ける体験が魅力で、「仙山歩道」は静かで美しく、木陰に包まれ鳥のさえずりや花の香りを感じられます。北埔で最も冒険心と自然の癒しを味わえる登山スポットで、ハイキング愛好家や家族連れが山林と親しむのに最適です。





新竹縣

台湾西北部
 東経122度、北緯22.5度
 桃園市、苗栗縣、台中市、宜蘭縣に隣接し、新竹市を囲むように位置している。
 面積は1427.5931km²。



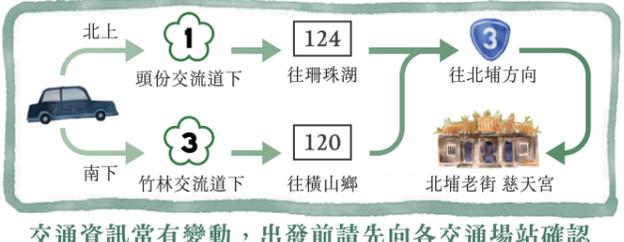
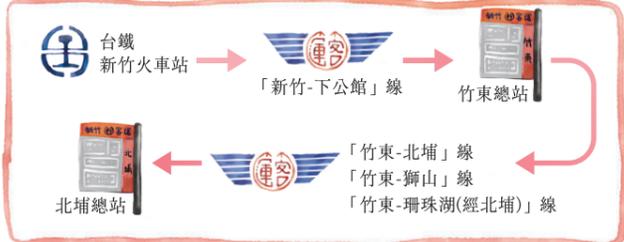
北埔郷の地形は主に山地と丘陵で構成され、溪流による深い浸食で北埔と南埔の二つの盆地が形成されています。広大な沖積平野はないものの、肥沃な土壌と豊富な灌漑水源を持つ沈積地帯であり、比較的平坦な地勢を有しています。北埔は新竹県で最も開発が遅れた地域のひとつで、かつては「竹北一堡南興庄」と呼ばれていました。

北埔は、特殊な武装移民の背景と濃厚な客家文化が融合した、独自の集落文化を育んできました。長い歴史の中で豊かな文化資産が蓄積され、地域の文化団体も非常に活発です。そのため北埔は、大隘地区の客家文化を動的に保存するモデル地域であり、創意と活力にあふれた客家文化の生活圏としても知られています。





交通資訊



新竹縣北埔鄉公所
 314新竹縣北埔鄉中山路20號
 03-5802204



交通資訊常有變動，出發前請先向各交通場站確認